

発達障害がある子どものいる通常学級の 実践と学級づくり

2018年7月14日(土)
午後1時半～4時半
エデュカス東京 5階会議室



特別支援教育が始まって11年、通常学級では発達障害傾向の子どもが増えつづけています。非常勤の支援員配置などがあるものの、通常学校における特別な支援を行う人的物的条件整備は十分ではありません。現場では、PDCAサイクルのかけ声の下、画一的な指導や「スタンダード」を求める管理的な体制が強化されつつあります。発達障害傾向のある子どもの場合、定められた基準に息苦しさ感じてクラスや学校に居づらくなったり、基準から逸脱するたびに叱られるといった悪循環に陥ることになったりすることもあります。

どの子どもも安心して過ごすことのできる学級づくりの努力と通常学校での特別支援教育の課題はつながっています。報告から学び、考えたいと思います。ふるってご参加ください。

報告と討論

通常学級の学級づくりー子どもの声を聞くことを大切に

中村 潤 (ふじみ野小学校)

通常学校における特別支援教育の課題ー支援員や通級指導などの現状を踏まえて

杉山敏夫 (東京都特別支援教室専門員)

発達障害児の親/教師ができること、できないこと：LD児の保護者兼塾講師の立場から

成田あゆみ（もじこ塾主宰）

連絡先 民主教育研究所 03-3261-1931 office@min-ken.org